
淡水棲カメ類の細菌感染症とその治療薬の薬剤疫学

中村有加里・深瀬 徹

794-8555 愛媛県今治市いこいの丘 1-3 岡山理科大学獣医学部獣医学科

Bacterial infections of freshwater turtles and pharmacoepidemiology of the remedies for the diseases.

By Yukari NAKAMURA and Tohru FUKASE

*Department of Veterinary Medicine, Faculty of Veterinary Medicine, Okayama University of Science,
1-3 Ikoi-no-oka, Imabari-shi, Ehime 794-8555, Japan*

他の動物種と同様に、淡水棲カメ類も様々な疾病に罹患する。各種の疾病は感染性疾患と非感染性疾患に分けることができる。感染性疾患は、何らかの病原体の感染ないしは寄生を受けることによって発症するものであり、その病原体として、ウイルスや細菌、真菌、蠕虫、ダニ、昆虫などが知られている。これらのなかでも、細菌による感染症は、淡水棲のカメ類に比較的多く発生する。

しかしながら、現在までのところ、カメ類の細菌感染症に関する知見は断片的であり、また、その治療法についても試行錯誤の状態にあるといつて過言ではない。とくに治療のための薬剤として、カメ類のために製造販売承認を取得している製品は世界的にもないのが現状である。そこで、淡水棲カメ類の細菌感染症の病原細菌と治療薬として用いられている薬物についてまとめておくことは、今後のカメ類の疾病の対策に有用であろうと考え、これまでの知見に関する文献の調査を試みた。

その結果、カメ類の細菌感染症から分離された細菌として、*Salmonella* spp., *Vibrio mimicus*, *V. cholerae*, *Camphylobacter fetus*, *Mycoplasma agassizii*, *Chlamydophila* spp., *Aeromonas* spp., *Mycobacterium* spp., *Pasteurella* spp., *Pseudomonas* spp., *Yersinia enterocolitica* などが認められた。このうち、

Aeromonas spp.などは淡水棲カメ類の生息地の水系や飼育水などに常在しているものであり、カメ類の体調の悪化などにもなって、日和見感染として細菌感染症を発症させることが推察された。

これらの細菌感染症の治療薬としては、抗菌薬が第一義的に使用されていた。主な薬物として、 β -ラクタム系薬物のカルベニシリンとアンピシリン、ピペラシリン、セフトジジム、セフォペラゾン、チカルシリン、アミノグリコシド系薬物のアミカシンとゲンタマイシン、ネオマイシン、テトラサイクリン系のドキシサイクリンとオキシテトラサイクリン、フルオロキノロン系のエンロフロキサシンとシプロフロキサシン、マクロライド系のクラリスロマイシンとタイロシン、エリスロマイシンなどが認められた。

上記の薬物は、製剤化された場合の医薬品の範疇としては、医師または歯科医師あるいは獣医師の処方や指示にもとづいて投薬が行われるものとなる。ただし、上述のように、カメ類のための動物用医薬品は開発されていない。カメ類に抗菌薬を投与する場合は、診察を行った獣医師の裁量により医療用医薬品や動物用医薬品のうちの要指示医薬品が適用外で処方されることになる。カメ類を対象とする動物用医薬品が上市されることを望みたい。